



PORTATONE

PSR-600

取扱説明書



YAMAHA

このたびは、ヤマハ・ポータートーン PSR-600 をお買い求め
いただきまして、誠にありがとうございます。

この取扱説明書の見方

本書は、PSR-600の豊富な機能、操作方法を理解しやすいように、
少しずつステップを踏んで読んでいただけるような構成になって
います。従って、基本的には前の方から順にご覧ください。
また、次のような見方をされるのもアイデアです。

すべてをご理解いただいた後は……

“もくじ”を見て、目的に合った所をさがす。

ボタン等のはたらきが分からなくなった時……

“各部の名称とはたらき”を開いて調べる。

さらに詳しく知りたい時は、そこに記載してある参照ページを見
る。

もくじ

1 ご使用の前に

1. 特徴 1
2. ご注意 2
3. 譜面立ての立て方 3
4. 和文シートの使い方 3
5. 電源 3
6. PSR-600早わかり 4

2 各部の名称とはたらき

1. 操作パネル 7
2. フロッピーディスクドライブユニット 11
3. 付属端子 11

3 試してみよう

1. 本体のデモ曲を聴いてみよう 12
2. 好きな音色で弾こう 13
3. チューニング 15
4. トランスポーズ 16
5. スプリット 17
6. デュアルボイス 19
7. スプリット+デュアル 21
8. パーカッション 23

4 音に効果をかけてみよう

1. ピッチベンド 26
2. オートハーモニー 27
3. DSP(リバーブ) 29
4. ボリューム 30
5. オクターブ 31
6. パン 32
7. サステイン 32
8. マルチパッド 33

5 リズムに合わせて弾こう

1. リズムに合わせて弾く 35
2. シンクロスタート 39
3. イントロ 40
4. フィルイン 40
5. エンディング 41

6 オートアカンパニメント(自動伴奏機能)を活用しよう

1. モードについて 42
2. シングルフィンガーモードで楽々演奏 43
3. シングルフィンガーコード一覧表 47
4. フィンガードモードでしっかり演奏 49
5. フィンガードコード一覧表 53
6. カスタムスタイルのパターンを作る 55
7. レッツプレイ 59

7 ソングメモリーを活用しよう

1. 10個の録音トラックについて 61
2. 録音の方法 61
3. 再生の方法 67
4. 再生の順番設定 69

8 本体にメモリーしよう

1. ボイスメモリー 72
2. ページメモリー 73

9 フロッピーディスクに保存しよう

1. フロッピーディスクについて 75
2. ファイルについて 76
3. 本体のページメモリーとセーブ・ロードのしくみ 76
4. デモディスクを聴いてみよう 77
5. フロッピーディスクのフォーマット(初期化) 79
6. 保存する(セーブ) 80
7. 読み出す(ロード) 81
8. 消去する(デリート) 82
9. ディスクディスプレイ表示一覧 83

10 MIDI

1. MIDIとは? 84
2. 本機のMIDI端子 84
3. MIDIでできること 84
4. MIDIの設定方法と機能 85
5. MIDI送受信メッセージ 87

11 資料

1. 他の機器と接続する 90
2. 初期化する 91
3. 操作不能になったら 92
4. 故障かな?と思ったら 93
5. 仕様 94
6. 同時発音数について 95
7. アフターサービスと保証 96

1. ご使用の前に

1. 特徴

◆高音質100種類の音色

AWM音源による高音質な100種類の音色を内蔵しています。

◆103種類のリズムスタイル

さまざまな演奏スタイルに対応する99種類のリズムと各ページのカスタムリズムを内蔵しています。

◆簡単にアンサンブル演奏が楽しめる

自動伴奏(オートアカンパニメント)機能を使えば、選んだリズムスタイルに合ったアレンジで、簡単にアンサンブル演奏が楽しめます。

◆オリジナルパターンを作成可能

自動伴奏のイントロ、フィルイン、ノーマル、ブリッジ、エンディングを、全て自分好みのパターンに変更できます。

◆オートハーモニー機能搭載

オートハーモニー機能により、単音で弾いても和音でプレイしているような効果を簡単に演出できます。ハーモニーのタイプは6種類用意されています。

◆デジタルリバーブを内蔵

2つのタイプのリバーブを内蔵しており、リバーブのかかり具合もトラックごとに調節できます。

◆音色の設定を変更可能

各音色の設定を変更して演奏したり、変更した音色をメモリーできます。

◆マルチトラックレコーディングが可能

ソングメモリー機能により、自分の演奏を録音したり再生したりできます。

最大5パターンのコード進行、最大5パターンのメロディーを録音して、後でそれらをつなげたり重ねたりしてオリジナル演奏曲に仕上げることができます。

◆パーカッションプレイが楽しめる

パーカッションの音色番号にするだけで、鍵盤を弾くことによりPSR-600がパーカッションに変身します。

◆マルチパッド装備

マルチパッドを4つ装備しており、それぞれに装飾用のリズムやフレーズを録音できます。

◆録音内容や設定内容を4ページ分メモリー可能

録音した内容や設定した内容を、4ページ(4セット)分メモリーできます。ステージでの演奏に向けてセッティングが可能です。

◆フロッピーディスクに12ページ分保存可能

録音した内容や設定した内容を、フロッピーディスク1枚につき12ページ分保存できます。フロッピーディスクを増やせば、ページメモリーは無限です。

◆MIDI端子を装備

電子楽器をコントロールするための統一規格であるMIDI端子を装備しています。シンセサイザーやシーケンサーなどと接続すれば、楽しみ方がさらに広がります。

2. ご注意

こんな所には置かないでください。



- ・窓際などの直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど極端に暑い場所
- ・日中の車内
- ・温度の特に低い場所
- ・湿気やホコリの多い場所
- ・振動の多い場所

こんな所では使わないでください。



- ・ラジオやテレビのすぐ近くで使用されますと、ラジオやテレビ側で雑音が発生することがあります。十分に離してお使いください。

乱暴に扱わないでください。



- ・落としたり、物をぶつけたり、上に座ったりしないでください。傷がついたり、故障の原因となることがあります。

使わない時は…



- ・パワーオン/オフボタンを押して電源をオフにしてください。
- ・長い間使わない時は、乾電池を取り出してください。
- ※ただし、電源アダプターを抜いて乾電池を取り出し約10分以上放置すると、メモリー内容が初期化されます。(91ページ参照)

美しく保つために…



- ・汚れは、柔らかい布でカラ拭きしてください。
- ・汚れがひどい時は、少し水で湿らせた布で拭いてください。
- ・アルコールやシンナー類は、絶対に使わないでください。
- ・ビニール製品を上に乗らないでください。貼り付いてしまうことがあります。

保管してください。



- ・この取扱説明書をお読みになった後は、保証書と共に大切に保管してください。

フロッピーディスクおよびフロッピーディスクドライブユニット取り扱い上の注意



- ・フロッピーディスク動作中に電源を切らないでください。
- ・フロッピーディスクを曲げたり、圧力をかけないでください。また、シャッターを開けて内部に手を触れないようにご注意ください。
- ・直射日光の当たる場所や、高温または低温の場所に置かないでください。
- ・フロッピーディスクは、必ず3.5インチ2DDマイクロフロッピーディスクをご指定の上お買い求めください。
- ・磁気を帯びた物に近づけないでください。保存されている内容が消去されたり、破壊されることがあります。
- ・フロッピーディスクを取り出す時は、イジェクトボタンをしっかりと正確に押し、フロッピーディスクが完全に出たことを確認してから、取り出してください。中途半端な状態で止まってしまった場合は、もう一度イジェクトボタンをしっかりと押し直すか、またはフロッピーディスクをディスク挿入口に完全に押し込んで、再度イジェクトボタンをしっかりと正確に押し直して、取り出してください。中途半端な状態で無理に引き出すと、フロッピーディスクドライブユニットおよび、フロッピーディスクが破損することがあります。
- ・フロッピーディスクドライブユニットに、フロッピーディスク以外の物を入れないようにご注意ください。取り出せなくなったり、フロッピーディスクドライブユニットおよび、フロッピーディスクが破損することがあります。

音楽を楽しむエチケット

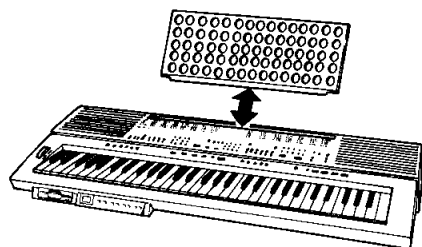


これは電子機械工業会
「音のエチケット」キャンペーンの
シンボルマークです。

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。特に、夜間は小さな音でもよく通り、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適当な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドフォンを使うなど、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

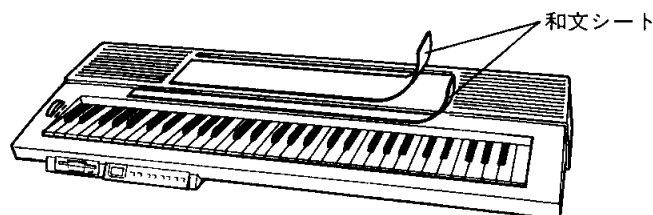
3. 譜面立ての立て方

付属の譜面立ては、PSR-600のパネル上のミゾに差し込んでお使いください。



4. 和文シートの使い方

付属の和文シートは粘着テープ式になっています。PSR-600のパネル面に貼り付けてお使いください。和文シートを使用すれば、各部の名称を日本語で読みとることができます。



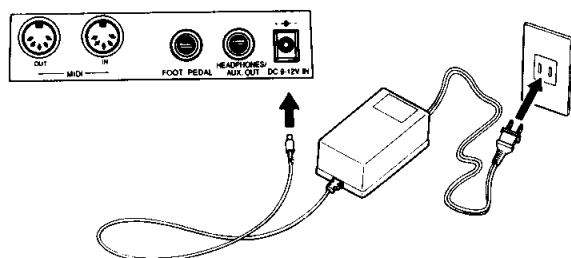
5. 電源

PSR-600は、家庭用コンセントでも乾電池でも使えます。お使いになる前に、どちらかを選んで準備してください。

家庭用コンセントから電源をとる場合

付属の電源アダプターPA-5を使用します。図のように接続してください。

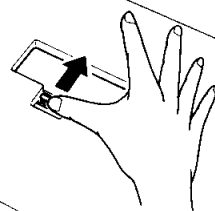
①背面パネルにある電源アダプター接続用端子<DC 9-12V IN>へ差し込む。



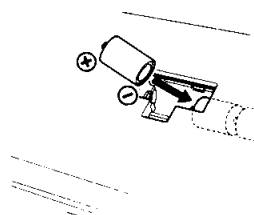
②家庭用(AC100V)コンセントに差し込む。

※他の電源アダプターは使わないでください。他の電源アダプターの使用による故障は保証の対象になりませんので、ご注意ください。

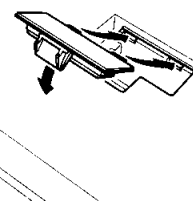
①PSR-600を裏返し、電池ブタを外します。



②市販の乾電池(単1乾電池)を6本入れます。向きを間違えないように入れてください。



③電池ブタを閉めます。



※乾電池が入っていても、電源アダプターが接続されると、自動的に電源アダプターから電源が供給されるように切り替わります。

※乾電池でご使用の場合に、電源を入れたまま使用していると、電池の消耗を防ぐため約10分後に、自動的に電源が切れます。

※古い乾電池や種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。

※乾電池の容量が少なくなると、“batt”の表示がディスプレイに出ます。その場合、一旦電源を切り、マスターボリュームを下げて再び電源を入れれば、しばらくの間は使用可能ですが、音が歪んだり、途切れたりする場合があります。また、この状態でフロッピーディスク動作をしないでください。フロッピーディスクに保存された内容を壊す場合がありますので、早めに電池交換をお勧めします。

乾電池交換の際は、単1乾電池6本と指定し、6本とも新しいものと交換してください。

※乾電池は本体メモリーの保持用にも用いられていますので、乾電池の容量が少なくなると本体メモリーの内容が失われます。(電源アダプターから電源が供給されている間は、本体メモリーの内容が保持されます。)

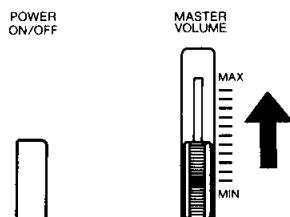
※乾電池の交換程度に要する時間(約10分)以内は、乾電池を抜いても本体メモリーの内容が保持されます。

6. PSR-600早わかり

最初にPSR-600のアウトラインをご紹介します。

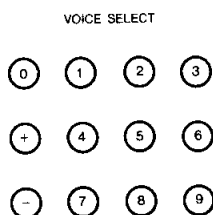
とにかく、まず使ってみたいという方は、☆印の項目を読んで、PSR-600を実際に操作してみましょう。

☆まず音を出してみよう



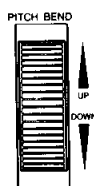
- ①パワーオン/オフボタンを押して電源を入れてください。
- ②マスターボリュームを上げてみましょう。鍵盤を押さえると、今選ばれている音色で鳴ります。

☆音色を変えてみよう



- ①ボイスセレクトボタンの0～9ボタンで指定します。たとえば音色番号03のエレクトリックピアノ1を指定する時には、0ボタンを押し、次に3ボタンを押します。
 - ②また、－ボタンや＋ボタンを使えば、音色番号を1番ずつ上げ下げすることもできます。たとえば、03番の状態で＋ボタンを1回押せば04番のエレクトリックピアノ2に変わります。各音色番号と音色名の関係は、コントロールパネルのボイスリストをご覧ください。
- ※音色番号は2桁の数字で指定します。はじめに10の位、次に1の位の順番で指定してください。

☆ピッチベンドホイール



音を出しながらピッチベンドホイールを回すことにより、ギターのチョーキング奏法のように音程を上げ下げできます。

※詳しくは26ページをご覧ください。

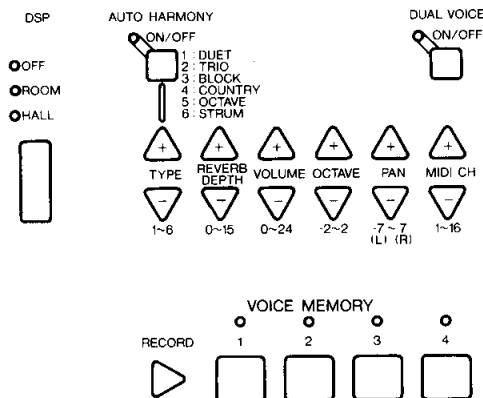
マルチディスプレイ



見やすい4桁表示のディスプレイを搭載。現在の状態が一目でわかります。

※詳しくは14～46ページをご覧ください。

効果をかける

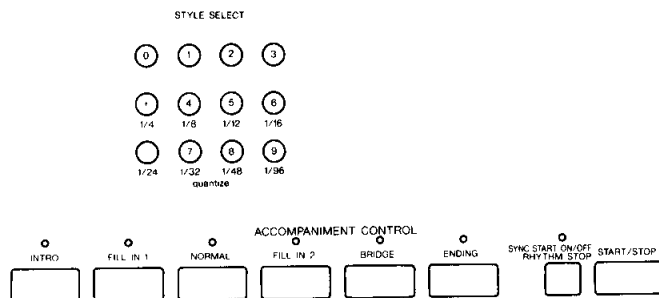


リバーブやオートハーモニー、デュアルボイスなどの効果をかけ
て弾くことができます。また、リバーブの深さを変更したり、発
音をオクターブずらすなどの設定変更も可能です。

※詳しくは27ページをご覧ください。

※設定を変えた音色をメモリーすることもできます。詳しくは72
ページをご覧ください。

☆リズムを鳴らそう



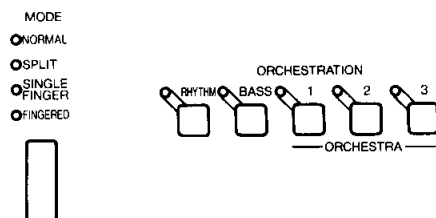
①スタイルセレクトボタンの0～9ボタン、または－ボタンや＋ボ
タンで指定します。各スタイル番号とスタイル名の関係は、コ
ントロールパネルのスタイルリストをご覧ください。

②ノーマルパターンを鳴らすか、ブリッジパターンを鳴らすかを
ボタンを押して指定します。そして、スタート/ストップボタ
ンを押すと、リズムが鳴り出します。

③リズムを止めたい時は、スタート/ストップボタンまたはエンデ
ィングボタンを押してください。

※詳しくは35ページをご覧ください。

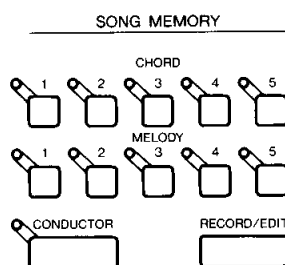
オートアカンパニメント(自動伴奏機能)



自動伴奏のモードには、コード演奏が苦手な人でも簡単な押さえ
方で自動伴奏を加えることができるシングルフィンガーモードと、
複雑なコードの曲にもバッチリ対応するフィンガードモードの2種
類あります。左手で自動伴奏向けにコードを押さえ、右手でメロ
ディーを弾いてみましょう。

※詳しくは42ページをご覧ください。

ソングメモリーを活用しよう

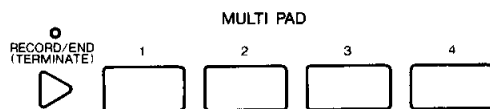


ソングメモリー機能を活用すれば、自動伴奏パート、メロディー
パートを、パートごとに録音できます。(録音済みのパートを再生
させながら、別のパートを録音したり演奏したりできます。)

1曲を分割して録音したものを、つなぎ合わせて1曲にすることも
可能です。

※詳しくは61ページをご覧ください。

☆マルチパッドを押してみよう

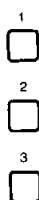


マルチパッド1~4を指で押すと、フレーズが鳴ります。曲の中で装飾音としてお使いください。

※各パッドの録音内容を変えることもできます。詳しくは33ページをご覧ください。

☆デモ曲を聴いてみよう

DEMO

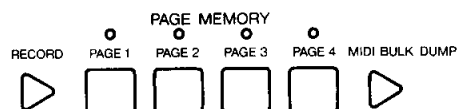


①3曲のデモ曲があります。デモ1ボタン~デモ3ボタンのいずれかを押して指定します。押したボタンに対応する曲がスタートします。

②デモ曲は繰り返し再生されます。止める時は、スタート/ストップボタンまたは、再生中の曲のデモボタンを押します。

※付属のデモディスクにも、デモ曲があります。詳しくは77ページをご覧ください。

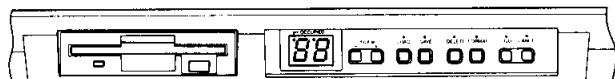
ページメモリーを活用しよう



PSR-600本体に4ページのページメモリーがあります。各ページメモリーにはパネルの設定と、カスタムスタイルのパターン、ボイスメモリー1~4、ソングメモリー、MIDI設定、マルチパッド1~4の内容をメモリーできます。演奏する曲に合わせてページを切り替えるなどして、全ページをフルに使いましょう。

※詳しくは61ページをご覧ください。

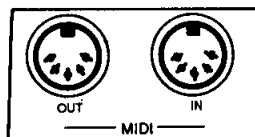
フロッピーディスクに保存しよう



1枚のフロッピーディスクには本体ページメモリーの12ページ分の内容が保存できます。ずっと残しておきたいページは、本体メモリーとは別に、フロッピーディスクに大切に保存し、必要な時に読み出しましょう。

※詳しくは75ページをご覧ください。

MIDIにチャレンジ

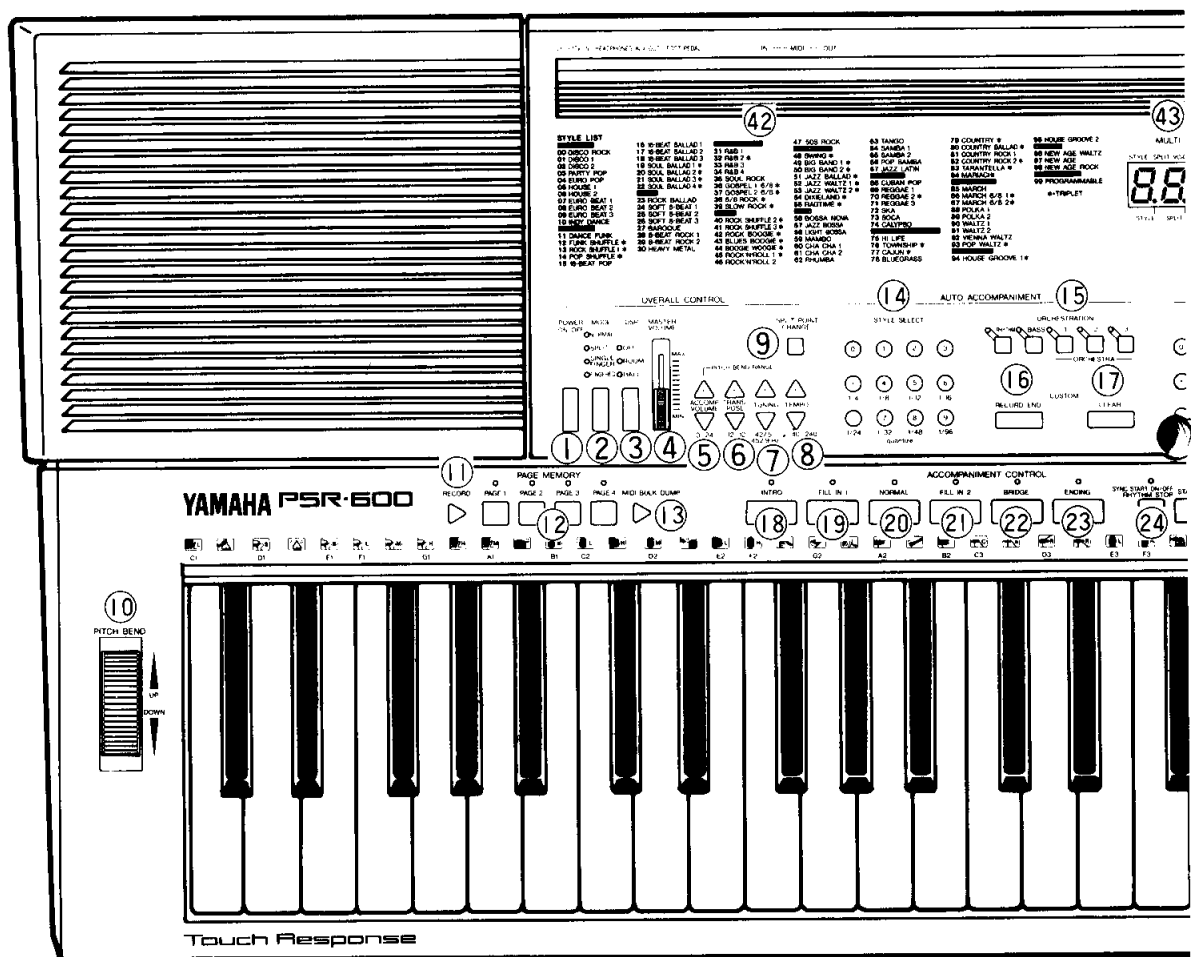


PSR-600の演奏をシンセサイザーから同時に鳴らしたり、シーケンサーやリズムマシンからPSR-600をコントロールしたり、MIDIを使えばもっと世界は広がります。というわけで、84ページでMIDIについてわかりやすく解説していますので、知っている人も知らない人も是非ご一読ください。

2.各部の名称とはたらき

→マークのところにくわしく説明してあります。

1. 操作パネル



全体のコントロール

①パワーオン/オフボタン(→12ページ)

このボタンを押すと電源が入ります。もう一度押すと切れます。電源が入ると、④③の[マルチディスプレイ]にスタイル番号と音色番号が表示されます。乾電池でご使用の場合は、10分以上使わないでいると自動的に切れます。

②モードボタン(→17、21、43、49ページ)

演奏モード(演奏のしかた)を切り替えるためのボタンです。選択したモードのランプが点灯します。

ノーマル

基本的な演奏ができます。

スプリット

低音側の鍵盤を弾いた時に鳴る音と高音側の鍵盤を弾いた時に鳴る音の音色を、異なったものにできます。

シングルフィンガー

低音側の鍵盤を指1本~3本で押さえて自動伴奏させることができます。自動伴奏は、リズム、ベース、オーケストラパートから成り立ちます。もちろん、自動伴奏に合わせて高音側の鍵盤で演奏できます。

フィンガード

低音側の鍵盤を普通のコードの押さえ方で自動伴奏させることができます。自動伴奏はシングルフィンガー時と同じで、リズム、ベース、オーケストラパートから成り立ちます。もちろん、自動伴奏に合わせて高音側の鍵盤で演奏できます。

③DSPボタン(→29ページ)

リバーブの種類を切り替えるためのボタンです。選択した種類のランプが点灯します。

④マスターボリューム(→12ページ)

全体の音量を調節するためのレバーです。

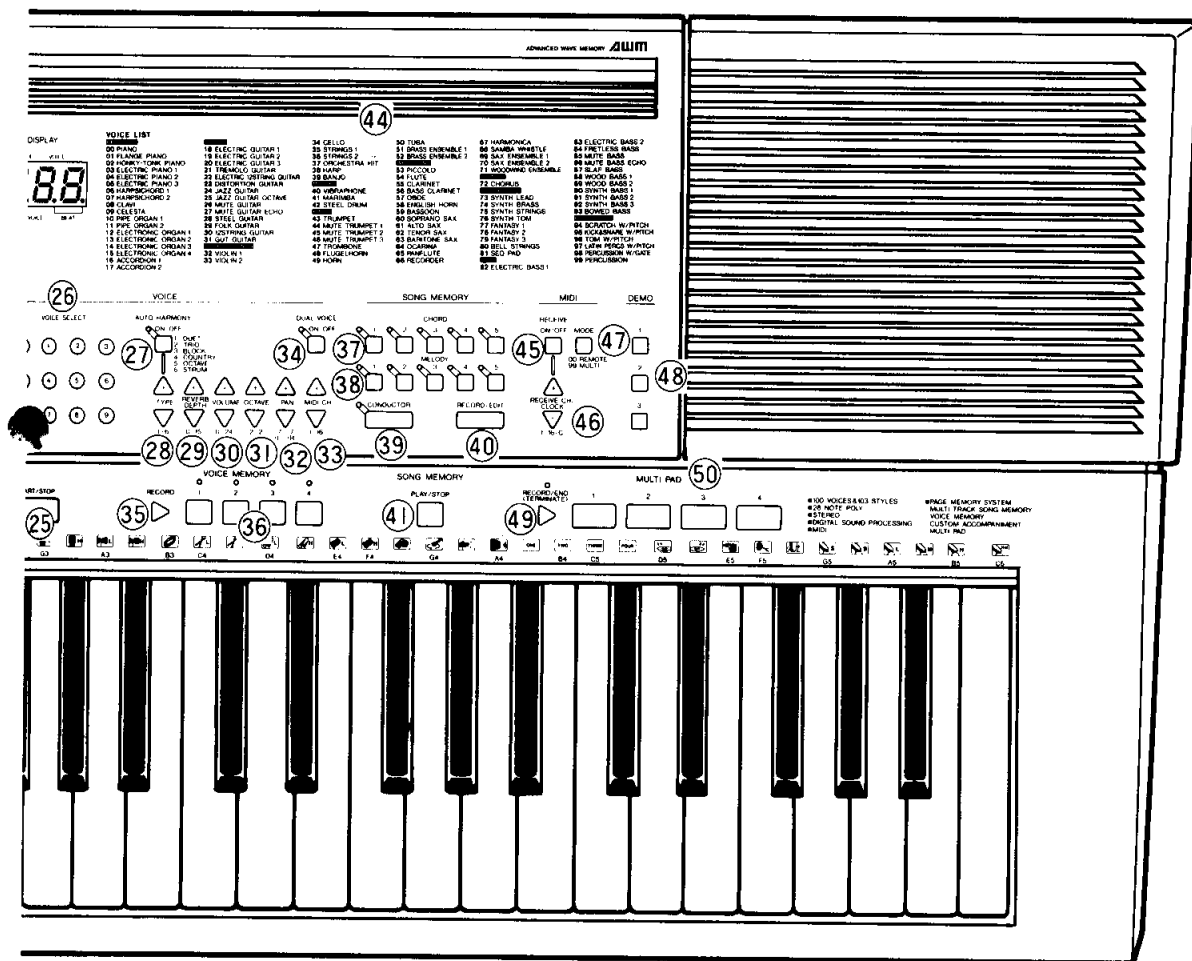
⑤アカンブボリューム(+、-)ボタン(→36ページ)

ピッチベンドレンジ(+、-)ボタン(→26ページ)

自動伴奏(リズム、ベース、オーケストラパート)の音量を全体的に調節するためのボタンです。また、ピッチベンドレンジを変更する時にも使います。

⑥トランスポーズ(+、-)ボタン(→16ページ)

トランスポーズ(移調)の量を設定するためのボタンです。



⑦チューニング(+,-)ボタン(→15ページ)

他の楽器と音程を合わせるための、微調整ボタンです。

⑨テンポ(+,-)ボタン(→36ページ)

リズム(曲)の速さを調節するためのボタンです。

⑤スプリットポイントチェンジボタン(→17、43、49ページ)

スプリット、シングルフィンガー、フィンガードの各モードについて鍵盤の低音側と高音側の境を変更する時に押します。

⑩ピッチベンドホイール(→26ページ)

このホイールを回すことにより、弾いている音だけの音程を上げ下げできます。

ページメモリー

⑪レコードボタン(→74ページ)

現在の各部の設定や録音内容を1セットにして、本体に記憶させたい時は、このボタンを押しながら、メモリー先のページボタンを押します。各ページに1セットずつメモリーできます。

⑫ページ1~4ボタン(→74ページ)

本体の各ページに記憶させた内容を、瞬時に各部に呼び出すことができます。

⑬MIDIバルクダンブボタン(→86ページ)

本体の各ページに記憶させた内容を、MIDIデータレコーダーや他のPSR-600、PSR-500にページ単位で送り出すことができます。これにより、他の機器に各ページの内容を保存したり、コピーできます。

オートアカンパニメント(自動伴奏)

⑭スタイルセレクト(0~9、+,-)ボタン(→35、55ページ)

クオンタイズ(1/4~1/96)ボタン(→57ページ)

これらのボタンでリズムスタイルを指定できます。

カスタムスタイルのパターン作成時には、クオンタイズの値を指定するためのボタンになります。

⑮オーケストレーション(リズム、ベース、オーケストラ1~3)ボタン(→45、51ページ)

各伴奏パートの音を鳴らすか鳴らさないか指定できます。ボタン左上のランプを点灯させるとオン(鳴る状態)、消灯させるとオフ(鳴らない状態)です。

⑯カスタムレコード/エンドボタン(→56、58ページ)

このボタンを押すと、スタイル番号99にカスタムスタイル(オリジナルスタイルのパターン)を作成できます。

もう一度押すとカスタムスタイルの作成が終了します。

⑰クリアボタン(→57、58ページ)

カスタムスタイルのパターン作成時に、録音済みパートのパターンを消去するためのボタンです。

アカンパニメントコントロール

⑱イントロボタン(→40ページ)

イントロのパターンでリズムをスタートさせたり、途中でイントロパターンを入れる時に押します。

⑲フィルイン1ボタン(→40ページ)

途中でフィルイン1パターンを入れたり、フィルイン1パターンでリズムをスタートさせる時に押します。

⑳ノーマルボタン(→37ページ)

ノーマルパターンでリズムをスタートさせたり、途中でノーマルパターンに切り替える時に押します。

㉑フィルイン2ボタン(→40ページ)

途中でフィルイン2パターンを入れたり、フィルイン2パターンでリズムをスタートさせる時に押します。

㉒ブリッジボタン(→37ページ)

ブリッジパターンでリズムをスタートさせたり、途中でブリッジパターンに切り替える時に押します。

㉓エンディングボタン(→41ページ)

エンディングパターンでリズムを停止させたり、エンディングパターンでリズムをスタートさせる時に押します。

㉔シンクロスタートオン/オフボタン(→39ページ)

シンクロスタート待機状態にする時(鍵盤を押すと同時にリズムをスタートさせる場合)に押します。もう一度押すと、シンクロスタート待機状態が解除されます。

また、リズムをスタートさせた後に押すと、リズムが停止してシンクロスタート待機状態になります。

㉕スタート/ストップボタン(→37、38ページ)

このボタンを押すと、指定したリズムパターンがスタートします。もう一度押すと、すぐに停止します。

ボイス(音色)

㉖ボイスセレクト(0~9、+、-)ボタン(→14、18、19ページ)

これらのボタンで、手弾き音の音色を指定できます。

㉗オートハーモニーオン/オフボタン(→27ページ)

オートハーモニーをオン/オフするボタンです。ボタン左上のランプを点灯させるとオン(付加音が付く状態)、消灯させるとオフ(付加音が付かない状態)になります。

㉘オートハーモニータイプ(+、-)ボタン(→27ページ)

オートハーモニーのタイプ(種類)を切り替えるためのボタンです。6タイプの中から選べます。

㉙リバーブデプス(+、-)ボタン(→29ページ)

リバーブの深さを調節するためのボタンです。

㉚ボリューム(+、-)ボタン(→30、36ページ)

演奏する音の音量を調節するためのボタンです。

㉛オクターブ(+、-)ボタン(→31ページ)

演奏する音の発音音程をオクターブ単位で移動させるためのボタンです。

㉜パン(+、-)ボタン(→32ページ)

演奏する音の音像定位(左右の間のどの辺から聞こえるようにするか)を、調節するためのボタンです。

㉝MIDI送信チャンネル(+、-)ボタン(→85ページ)

PSR-600のMIDI OUT端子を使用する場合のみ関係します。演奏する音のMIDI送信チャンネルを切り替えるためのボタンです。

㉞デュアルボイスオン/オフボタン(→19ページ)

弾いた音を2音色で鳴らすか1音色で鳴らすかを切り替えるためのボタンです。ボタン左上のランプを点灯させるとデュアルオン(2音色の状態)、消灯させるとオフ(1音色の状態)です。デュアルオン時には、デュアルオン時に追加される方の音色(デュアル音色)の番号を指定できます。

ボイスメモリー

㉟レコードボタン(→72ページ)

現在の音色番号を記憶させる時は、このボタンを押しながら、メモリー先の番号(1~4)ボタンを押します。各番号に、音色関係の設定も含めて1音色ずつ記憶されます。

㊱1~4ボタン(→72、73ページ)

各番号にメモリーした音色を、音色関係の設定も含めて呼び出すことができます。

ソングメモリー

③7コード1～5ボタン(→62～70ページ)

各ボタンそれぞれにコード進行を録音し、再生させることができます。

③8メロディー1～5ボタン(→62～70ページ)

各ボタンそれぞれにメロディーやオブリガートを録音し、再生させることができます。2つ以上のトラックを選んで、いっしょに再生させることもできます。

③9コンダクターボタン(→69、71ページ)

各ボタンに録音したコード進行やメロディーを連結させて1曲に仕上げたり、連結させて仕上げた曲を再生する時に使用します。

④0レコード/エディットボタン(→62～69ページ)

このボタンを押しながら録音先の番号ボタンを押すとその番号のボタンが録音待機状態になります。録音内容を修正する時にも使います。

④1プレイ/ストップボタン(→63～71ページ)

連結させて仕上げた曲、またはコード進行やメロディーを単独にスタートさせるためのボタンです。もう一度押すと停止します。

表示

④2スタイルリスト(→35、43、50ページ)

100種類のスタイル名が表示されています。これらの中から演奏に使うスタイルを選択できます。

※99番はカスタムスタイルです。ページ1～4の各パターンを、オリジナルパターンに変更できます。

④3マルチディスプレイ(→14～49ページ等)

スタイル番号と音色番号がここに表示されます。なお、テンポ、スプリットポイントチェンジ、チューニング、トランスポーズ等の設定時は、設定の間だけ、その値が表示され、数秒後にはスタイル番号と音色番号の表示に戻ります。

④4ボイスリスト(→13、18、19、44、50ページ)

100種類の音色名が表示されています。これらの中から演奏する音色を選択できます。

MIDI

④5受信オン/オフボタン(→85ページ)

④5のボタンで表示させた、MIDI受信チャンネルを受信可能にするか、不可能にするか選択できます。

④6受信チャンネル/クロックボタン(→85ページ)

このボタンを押すとMIDIの各チャンネルについて受信可能/不可能表示がされます。また、内部クロック/外部クロックの選択状態を表示します。

④7MIDIモードボタン(→86ページ)

MIDI受信モードをリモートコントロールモードにするか、マルチモードにするか指定できます。

デモ

④81～3ボタン(→12ページ)

デモ曲(1～3)をスタートさせるボタンです。もう一度押すと停止します。

マルチパッド

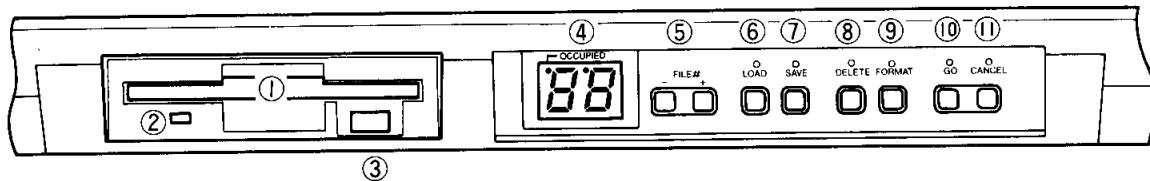
④9レコード/エンド(ターミネイト)ボタン(→34ページ)

リズムやメロディーをマルチパッド1～4に録音する場合は、このボタンを押しながら、録音先のパッドを押します。もう一度押すと録音が終了します。また、再生時には再生の途中で停止(ターミネイト)させるボタンとして働きます。

⑤0マルチパッド1～4(→33、34ページ)

録音したリズムやメロディーを再生させるボタンです。

2. フロッピーディスクドライブユニット



①ディスク挿入口(→75ページ)

フロッピーディスクを差し込むところです。

②ユーズランプ

PSR-600本体とフロッピーディスクの間で、データがやりとりされている時に点灯するランプです。

③イジェクトボタン(→75ページ)

フロッピーディスクを取り出す時に押すボタンです。

④ディスクディスプレイ(→77～83ページ)

ファイル番号などが表示されます。

⑤ファイル番号ボタン(→77～82ページ)

ファイル番号を指定するためのボタンです。フロッピーディスク1枚につき1～12までの12ファイルあり、1ファイルに1ページずつ保存できます。デモディスクは1～6の6ファイル(6曲)保存されています。

⑥ロードボタン(→77、81ページ)

指定したファイル番号の内容を、読み出す(ロード)ためのボタンです。

⑦セーブボタン(→80ページ)

本体のページメモリー(1～4のいずれか)の内容を、指定したファイル番号に保存(セーブ)するためのボタンです。

⑧デリートボタン(→82ページ)

保存済みのファイルを消去するためのボタンです。

⑨フォーマットボタン(→79ページ)

フロッピーディスクを使用できるように、フォーマット(初期化)するためのボタンです。データの入っているディスクは消去されますので、ご注意ください。

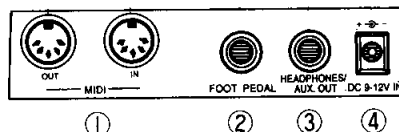
⑩ゴーボタン(→77～82ページ)

フロッピーディスクのフォーマット(初期化)、保存(セーブ)、読み出し(ロード)、消去(デリート)を実行するためのボタンです。

⑪キャンセルボタン(→79～81ページ)

フロッピーディスクのフォーマット(初期化)、保存(セーブ)、読み出し(ロード)、消去(デリート)を取り消すためのボタンです。また、エラー表示を解除する時もこのボタンを押します。

3. 付属端子



①MIDI(アウト、イン)端子(→84ページ)

他のMIDI(ミディ)機器と接続するための端子です。他のMIDI機器と接続すると、MIDI機能を使えるようになります。

②フットペダル接続用端子(→32ページ)

付属の専用フットペダルを接続するための端子です。フットペダルを踏むと、押鍵音にサステインがかかります。

③ヘッドフォン/AUX出力端子(→90ページ)

PSR-600の音を出力する端子です。ヘッドホンに接続して夜間練習したり、キーボードアンプやステレオに接続して、より大きな音で鳴らすことができます。

この端子にプラグを差し込むと、PSR-600のスピーカーからは音が出なくなります。

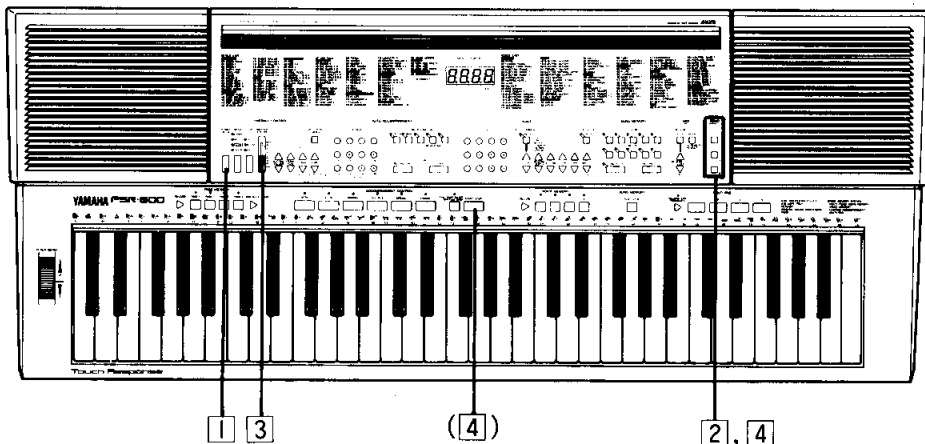
④電源アダプター接続用端子(→3ページ)

付属の電源アダプターPA-5を接続するための端子です。PA-5を接続すると、家庭用の電源コンセントから電源をとって使用できるようになります。

3. 鳴らしてみよう

1. 本体のデモ曲を聴いてみよう

PSR-600本体にはデモンストレーション曲が3曲入っており、いつでも自由に聴くことができます。



1 電源を入れる

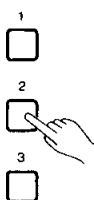
POWER
ON/OFF



パワーオン/オフボタンを押して電源を入れます。

2 曲のスタート

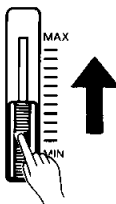
DEMO



デモ1～3ボタンの内、聴きたい曲のボタンを押します。
押したボタンの曲が、すぐにスタートします。
※スタート後に他のデモボタンを押すと、押したボタンの曲の再生に変わります。

3 音量の調節

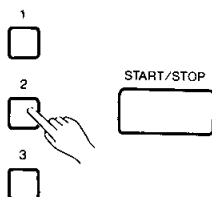
MASTER
VOLUME



マスターボリュームで適度な音量になるように調節します。

4 ストップ

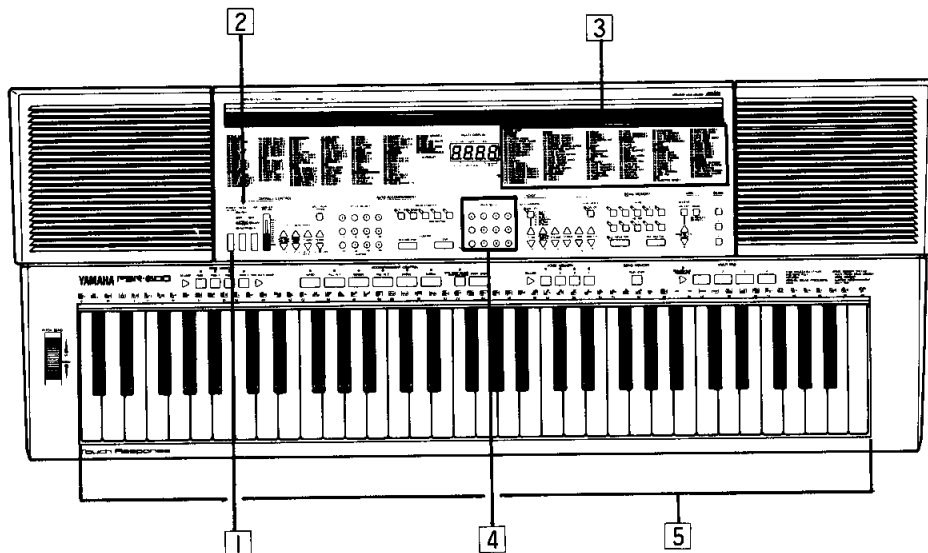
DEMO



曲は繰り返し再生されます。停止させる時は、押した番号のデモボタン、スタート/ストップボタンのどちらかを押します。

2. 好きな音色で弾こう

PSR-600には演奏する曲に合わせて選べる100種類の音色がプリセットされています。いろいろな音色に切り替えて弾いてみましょう。



1 電源を入れる

パワーオン/オフボタンを押して電源を入れます。

2 ノーマルモードにする

MODE
☒ NORMAL
☐ SPLIT
☐ SINGLE
☐ FINGERED



ノーマルモードになっていない場合は、モードボタンを押してノーマルのランプを点灯させます。

3 音色番号の確認

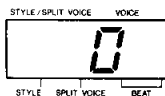
ボイスリストの中から、演奏に使う音色を見つけます。

4 音色の指定

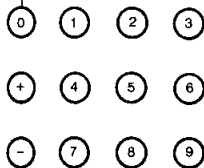
0~9ボタンで指定する場合

例) 音色番号08のクラビを指定する

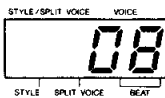
0ボタンを押して、



VOICE SELECT



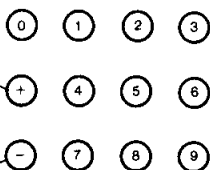
次に8を押します。



+ボタンで指定する場合

VOICE SELECT

大きい番号の
音色になる



小さい番号の
音色になる

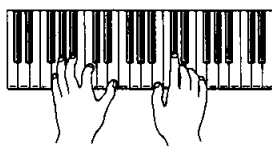
指定の方法には2種類あります。

10の位のボタンを押したうえで、1の位のボタンを押します。

+ボタンを押すと1大きい番号の音色になり、-ボタンを押すと1小さい番号の音色になります。

押し続けると連続して変わります。

5 演奏



好きな曲を弾いてみましょう。

※音の大きさは押鍵の強弱に応じて変化しますので、抑揚の表現(タッチレスポンス)が可能です。

また、音色によってこの感度は異なります。ピアノやビブラフォンの音色はハープシコードやフォークギターの音色よりも感度が高く、オルガン系の音色にはタッチレスポンスがありません。

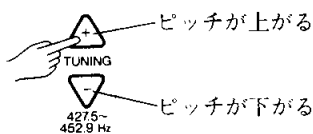
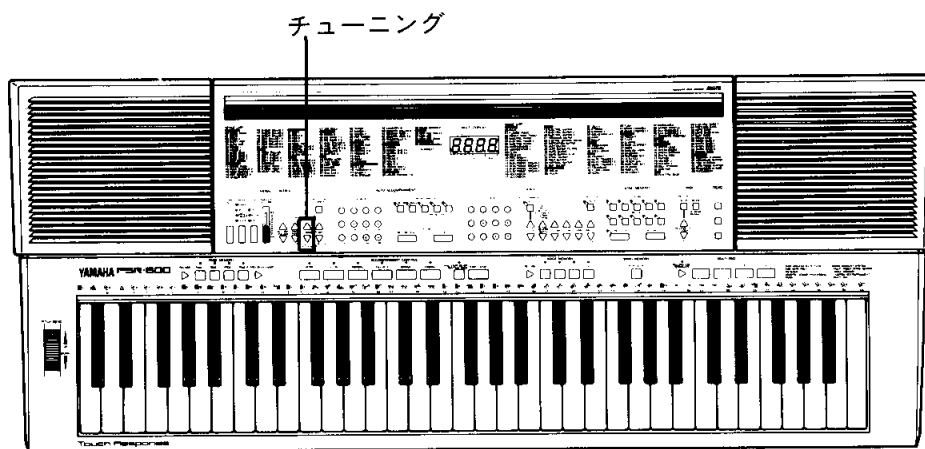
※いろいろな音色に切り替えて弾いてみましょう。

※最大同時発音数については、95ページを参照してください。

※音色によって最適な音域が鍵盤に割り付けられます。

3. チューニング

合奏する時や、CD、テープ等の音楽に合わせて演奏する時に、微妙に自分の楽器とチューニングが違って困ることがよくありますが、PSR-600なら心配ありません。チューニング機能でピッチ(音程)を変えれば、合わせたい楽器や音源に合ったチューニングで演奏できます。



~



チューニングボタンでピッチを合わせます。

ボタンを押すと、現在値が表示されます。現在値の表示の間にボタンを押すと、値が変更されます。

音を聴きながら、こきざみにボタンを押してピッチを合わせてください。

※押し続けると値が連続して変わります。

※+ボタンと-ボタンを同時に押すと、標準のA3=440.0Hzに戻ります。

※パーカッション(音色番号94~99)の音色のピッチは変わりません。

4. トランスポーズ

押さえる鍵盤(運指)を変えずに、歌う人の声の高さにキーを合わせる。つまり移調(トランスポーズ)することができます。(弾く高さで発音される音の高さをずらすことができます。)

±12半音(±1オクターブ)の範囲で設定できます。たとえば値を+5にすると、

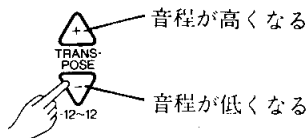
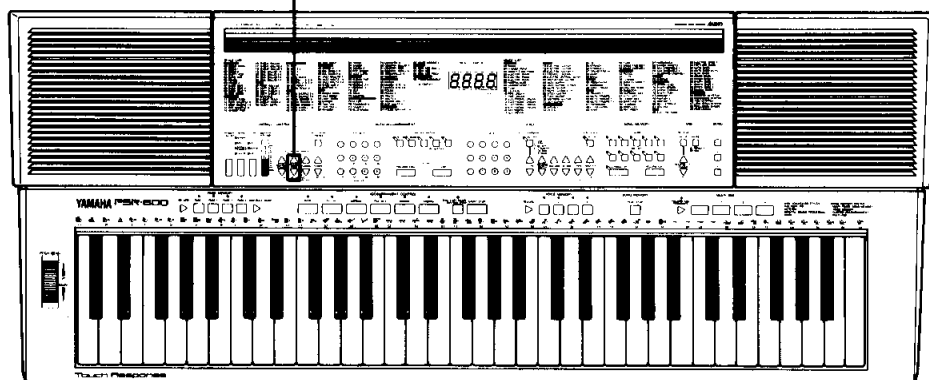


のように弾いたものが、



のように5半音高く鳴ります。

トランスポーズ



移調量をトランスポーズボタンで指定します。

ボタンを押すと、現在値が表示されます。現在値の表示の間にボタンを押すと、値が変更されます。

値を1大きくするごとに半音高く、1小さくするごとに半音低く発音されるようになります。

※押し続けると値が連続して変わります。

※+ボタンと-ボタンを同時に押すと、標準の0に戻ります。

※この機能は、合奏などで弾き方を変えずに他の楽器とキー(調)を合わせる時にも便利です。

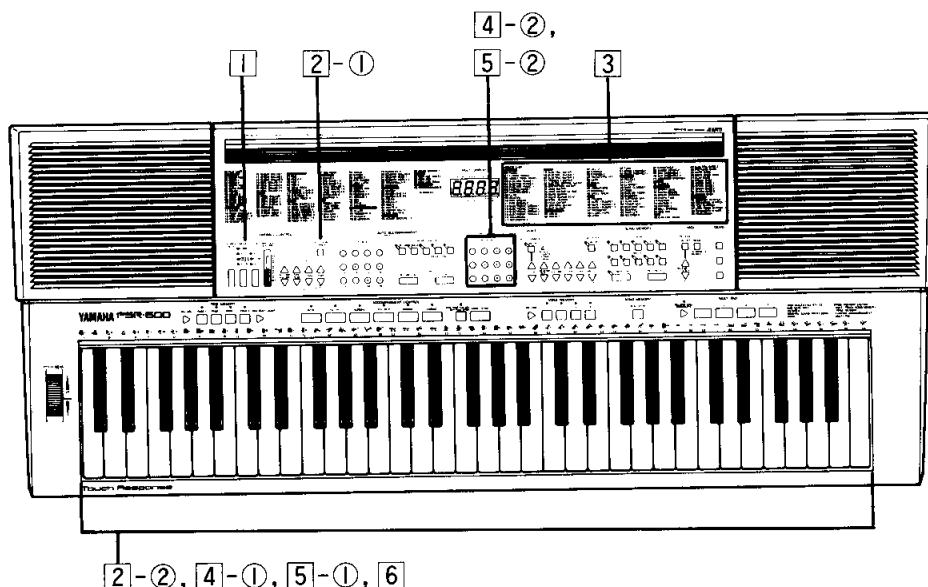
また、鍵盤の最低音より低い音や最高音より高い音が必要な時にも役立ちます。

※パーカッション(音色番号94~99)の音色には、トランスポーズはかかりません。

※鍵盤を押している間にトランスポーズの設定を変えることはできません。

5. スプリット

スプリットの機能を使うことにより、低音(左手)側と高音(右手)側に分けて別々の音色で演奏できます。主に低音側では伴奏を、高音側ではメロディーパートを演奏します。



1 スプリットモードにする

MODE
 ○NORMAL
 ●SPLIT
 ○SINGLE
 ○FINGER



モードボタンを押してスプリットのランプを点灯させます。

2 スプリット位置の指定

①

SPLIT POINT
CHANGE



を押しながら

②



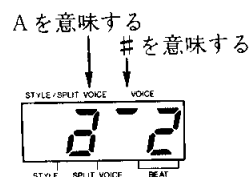
押した鍵盤は高音側に
含まれる

スプリットポイントチェンジボタンを押すと、ディスプレイに低音側と高音側の境が表示されます。必要であれば、次の方法で、低音側と高音側の境を変更します。

①スプリットポイントチェンジボタンを押しながら、

②境にする鍵盤(高音側の最低音)を押します。

例) A#2をスプリット位置にした時の表示



※モードボタンが“ノーマル”の場合、スプリット位置は存在しません。したがって、スプリットポイントチェンジボタンを押すと、[―――]が表示されます。

3 音色番号の確認

ボイスリストの中から、それぞれの音色を見つけます。

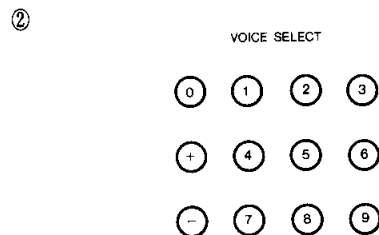
4 高音側の音色の指定

高音側の音色は、スプリットに切り替える前の音色になっています。音色を切り替える場合は、

①高音側のいずれかの鍵盤を押します。



②ボイスセレクトボタンで、高音側の音色を指定します。
(指定した音色の番号が右2桁に表示されます。)



5 低音側の音色の指定

低音側の音色は、以前スプリットモードで指定した音色が再び呼び出されます。音色を切り替える場合は、

①低音側のいずれかの鍵盤を押します。(押鍵後の約2秒間は、スタイル番号のかわりに低音側の音色番号が表示されます。)

②ボイスセレクトボタンで、低音側の音色を指定します。
(スタイル番号の表示に戻ってからでも、ボイスセレクトボタン押すと指定した音色の番号が左2桁に約2秒間表示されます。)



左2桁は低音側、右2桁は高音側の音色番号

6 演奏

好きな曲を弾いてみましょう。指定したスプリットポイントを境に別々の音色で演奏できます。

※スプリットからノーマルモードに戻すと、高音側で指定していた音色になります。

※いろいろな音色に切り替えて弾いてみましょう。

※デュアル機能(19ページ参照)を併用することができます。そうすれば、高音側と低音側それぞれ2音色(21ページ参照)で演奏できます。

※スプリット位置の表示は、次のようになります。

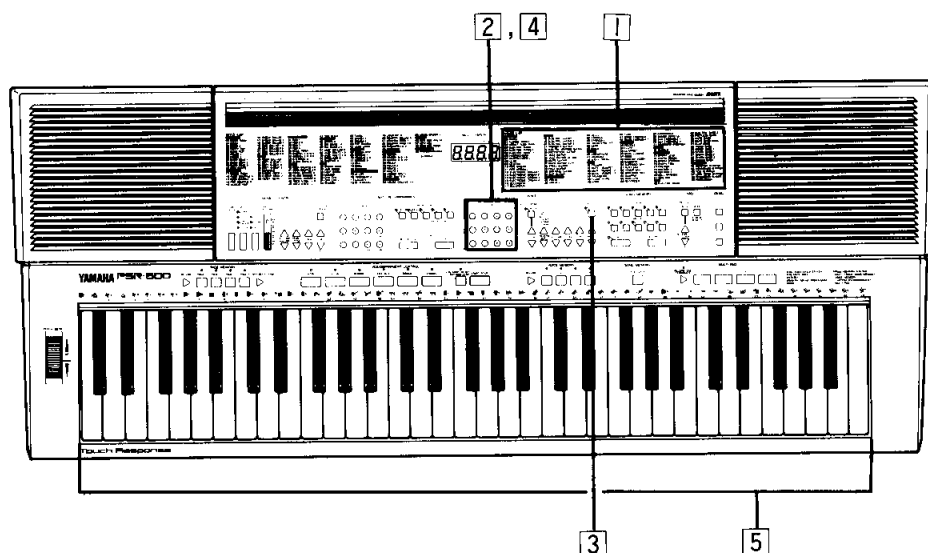


※スプリットポイントは、スプリット、シングルフィンガー、フィンガードモード別に指定できます。

※ボイス部の設定値を、低音側と高音側別々の値にすることもできます。それぞれ設定を変える側の鍵盤を押した後に設定します。ただし、低音側の音にはオートハーモニー効果はかかりません。

6. デュアルボイス

100種類の音色の中から2つの音色を選んで、同時に鳴らすことができます。



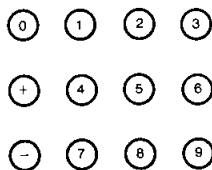
1 音色番号の確認

ボイスリストの中から、組み合わせる音色を見つけます。

2 片方の音色の指定

デュアルボイスオン/オフボタン オフの状態、ボイスセレクトボタンで、2つの音色の内の片方(ノーマル音色)を指定します。

VOICE SELECT



3 デュアルボイスオン/オフボタンをオンにする

デュアルボイスオン/オフボタンを押してランプを点灯させます。

DUAL VOICE
ON/OFF



4 もう一方の音色の指定

ボイスセレクトボタンで、もう一方の音色(デュアル音色)を指定します。
※ここで指定したデュアル音色は、デュアルボイスをオンにした時のみ呼び出されます。

5 演奏

好きな曲を弾いてみましょう。

※いろいろな音色を組み合わせで弾いてみましょう。

※スプリット機能を併用することができます。そうすれば、高音側と低音側それぞれ2音色で演奏できます。21ページをご覧ください。

※押鍵中にデュアルボイスオン/オフボタンをオンにすると、押鍵中の音が消えます。

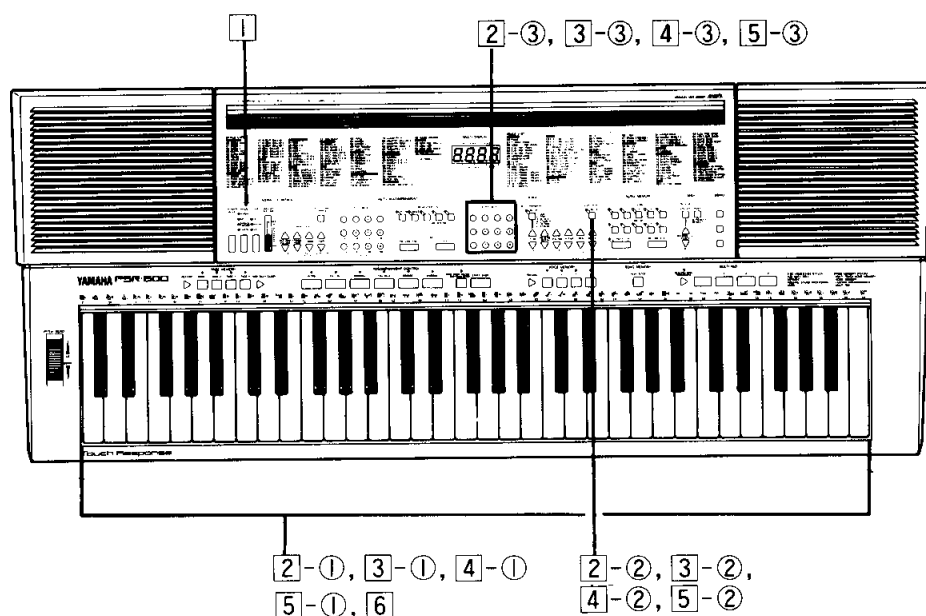
オンした後の押鍵より、デュアルで発音されます。

※押鍵中にデュアルボイスオン/オフボタンをオフにすると、押鍵中の音が消えます。

7. スプリット+デュアル

スプリットとデュアルの機能を同時に使うと、低音側と高音側それぞれに2つの音色を割り当てることができます。

※スプリットポイントの切替方法(17ページ参照)



1 スプリットモードにする

モードボタンを押してスプリットのランプを点灯させます。

2 高音側のノーマル音色を指定

- ①高音側のいずれかの鍵盤を押します。
- ②デュアルボイスオン / オフボタンのランプが点灯していたら押してオフにします。
- ③ボイスセレクトボタンで、高音側の音色を指定します。
(指定した音色の番号が右2桁に表示されます。)

3 低音側のノーマル音色を指定

- ①低音側のいずれかの鍵盤を押します。
- ②デュアルボイスオン / オフボタンのランプが点灯していたら押してオフにします。
- ③ボイスセレクトボタンで、低音側の音色を指定します。
(指定した音色の番号が左2桁に表示されます。)

4 高音側のデュアル音色を指定

- ①高音側のいずれかの鍵盤を押します。
- ②デュアルボイスオン/オフボタンを押してランプを点灯させます。
- ③ボイスセレクトボタンで、高音側のもう一方の音色を指定します。
(指定した音色の番号が右2桁に表示されます。)

5 低音側のデュアル音色を指定

- ①低音側のいずれかの鍵盤を押します。
- ②デュアルボイスオン/オフボタンを押してランプを点灯させます。
- ③ボイスセレクトボタンで、低音側のもう一方の音色を指定します。
(指定した音色の番号が左2桁に表示されます。)

6 演奏

好きな曲を弾いてみましょう。

●どの状態の時にどの音色を指定できるか？

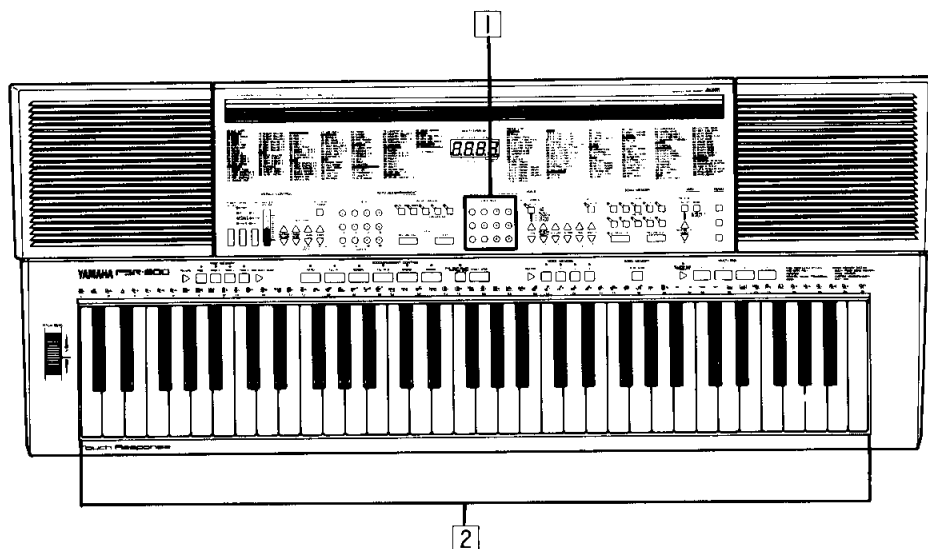
	低音側の鍵盤を押した後	高音側の鍵盤を押した後
デュアルボイスオフ (ランプ消灯)時	低音側のノーマル音色を指定できる。	高音側のノーマル音色を指定できる。
デュアルボイスオン (ランプ点灯)時	低音側のデュアル音色を指定できる。	高音側のデュアル音色を指定できる。

表中のノーマル音色とは、1音色の状態にした時に鳴る音色を意味します。表中のデュアル音色とは、ノーマル音に付け加えられる音色を意味します。

8. パーカッション

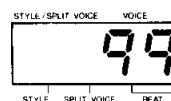
音色番号を94～99のパーカッション系の番号にすると、打楽器の音が各鍵盤に割り付けられ、鍵盤上で打楽器演奏が可能になります。

※音色番号98および99の時の各鍵盤への割り付けが、PSR-600の鍵盤上のパネルに印刷されています。



1 音色番号を指定

ボイスセレクトボタンで、音色番号94～99のいずれかにします。



2 打楽器演奏

鍵盤を押してリズム演奏してみましょう。

4.音に効果をかけてみよう

*パーカッションの音色番号を選んだ時、各鍵盤へ次のように割り付けられます。

94 スクラッチ ピッチ付

鍵盤	楽器
C1~C6	スクラッチ

95 キック&スネア ピッチ付

鍵盤	楽器
C1~B1	バスドラム(ヘビー)
C2~B2	バスドラム(ライト)
C3~B3	スネアドラム(ロー)
C4~B4	スネアドラム(ハイ)
C5~C6	スネアドラム(シンセ)

96 タム ピッチ付































鍵盤	楽器
C1~B2	タム(アコースティック)
C3~C6	タム(シンセ)



97 ラテンパーカッション ピッチ付

鍵盤	楽器
C1~B1	コンガ
C2~B2	ボンゴ
C3~B3	ティンパレス
C4~B4	アゴゴ
C5~C6	タイーカ

98 パーカッション ゲート付

99 パーカッション

鍵盤	楽器
C1	 バスドラム(ロー)
C#1	 トライアングル(ミュート)
D1	 スネアドラム(シンセ)
D#1	 トライアングル(オープン)
E1	 タム(シンセ バス)
F1	 タム(シンセ ロー)
F#1	 タム(シンセ ミッド)
G1	 タム(シンセ ハイ)
G#1	 バスドラム(ハイ)
A1	 バスドラム(ミッド)
A#1	 クローズリムショット
B1	 タム(ベース)
C2	 タム(ロー)
C#2	 スネア(ハイ)
D2	 タム(ミッド)
D#2	 オープンリムショット
E2	 スネアドラム(ロー)
F2	 タム(ハイ)
F#2	 ハンドクラップ
G2	 カウベル
G#2	 カバサ
A2	 ハイハット(クローズ)
A#2	 ブラッシュ(ヒット)
B2	 ハイハット(オープン)
C3	 クラッシュシンバル
C#3	 スプラッシュシンバル
D3	 ライドシンバル(1)
D#3	 ライドシンバル(2)
E3	 コンガ(ロー)
F3	 コンガ(ハイ)

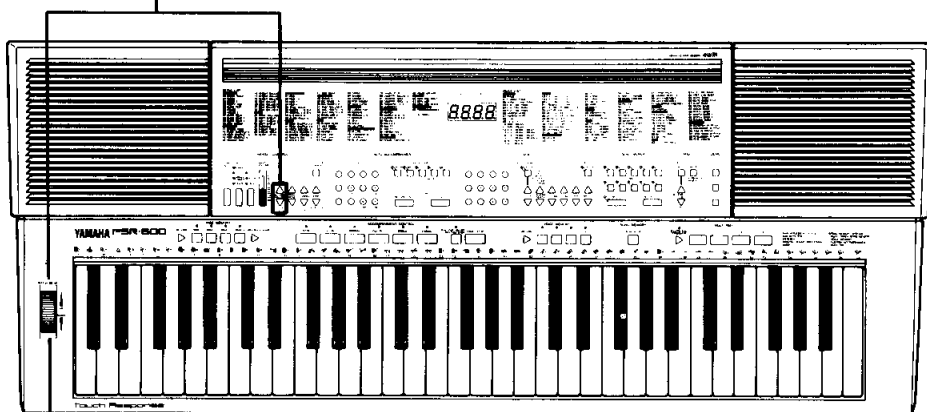
鍵盤	楽器
F#3	 コンガ(ミュート)
G3	 ボンゴ(ロー)
G#3	 ボンゴ(ハイ)
A3	 ティンパレス(ロー)
A#3	 ティンパレス(ハイ)
B3	 タンバリン
C4	 クラベス(ロー)
C#4	 クラベス(ハイ)
D4	 アゴゴ(ロー)
D#4	 アゴゴ(ハイ)
E4	 クイーカ(ロー)
F4	 クイーカ(ハイ)
F#4	 ホイッスル
G4	 ブラッシュ(スクイーズ)
G#4	 ハイハット(フット)
A4	 スネアドラム(ロー ゲートリバーブ付)
A#4	 声1
B4	 声2
C5	 声3
C#5	 声4
D5	 スクラッチ(ロー)
D#5	 スクラッチ(ハイ)
E5	 ボンゴ(ミュート)
F5	 マラカス
F#5	 バスドラム(ハウス)
G5	 スネアドラム(ハウス)
G#5	 タム(ハウス バス)
A5	 タム(ハウス ロー)
A#5	 タム(ハウス ミッド)
B5	 タム(ハウス ハイ)
C6	 ハイハット(ハウス)

4.音に効果をかけてみよう

1. ピッチベンド

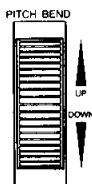
演奏しながらピッチベンドホイールを回すことにより、演奏中の音程を上げ下げできます。ちょうどギターのチョーキング奏法のような効果が得られます。

- ・ピッチベンドの可変範囲を変更する。



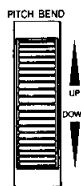
- ・ピッチベンド効果をかける。

効果をかける

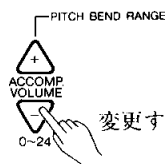


演奏しながら、ピッチベンドホイールをアップ側に回すと音程が上がり、ダウン側に回すと下がります。

可変範囲を変更するには

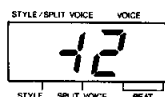


どちらかに回しきった状態で



変更する。

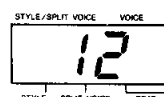
- ①ピッチベンドホイールをアップ側最大、またはダウン側最大に回したまま、
 - ②ア कंपボリューム/ピッチベンドレンジボタンで変更します。
- ※可変範囲を、±半音～±12半音(1オクターブ)のいずれかに変更できます。



可変範囲は±オクターブで、ホイールの方向性が逆になる。

※マイナスの値を指定した場合は、ピッチベンドホイールのアップ/ダウンの方向性が変わります。(アップ側に回すと音程が下がり、ダウン側に回すと音程が上がるようになります。)

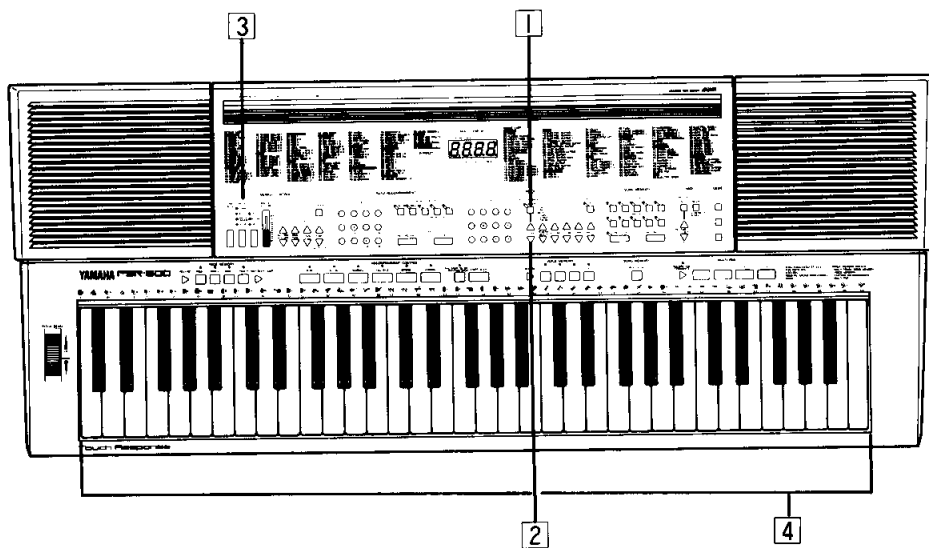
※ピッチベンドホイールをアップ側に最大またはダウン側に最大まで回したまま、ア कंपボリュームボタンの+ボタンと-ボタンを同時に押すと、可変範囲が初期値の2(±全音)に戻ります。



可変範囲は±オクターブで、ホイールの方向性はそのまま。

2. オートハーモニー

オートハーモニーは、演奏中の音に厚みを与える効果です。サビなどの盛り上げたい所でオンにすると、メリハリが付いて効果的です。

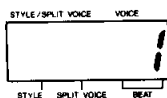
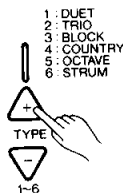


1 オートハーモニーをオンにする

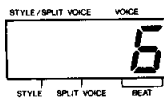


オートハーモニーオン/オフボタンを押してランプを点灯させます。

2 タイプを選ぶ



~



タイプボタンを押して、タイプを指定します。

ボタンを押すと、現在値が表示されます。現在値の表示の間にボタンを押すと、値が変更されます。

1: デュエット

2音のハーモニーになります。(弾いた音よりも音程の低い音が1音付加されます。)

2: トリオ

3音のハーモニーになります。(弾いた音よりも音程の低い音が2音付加されます。)

3: ブロック

ジャズ風のハーモニーになります。(ブロックコードで演奏した時のようになります。)

4: カントリー

カントリー調のハーモニーになります。(弾いた音よりも音程の高い音が1音付加されます。)

5: オクターブ

オクターブユニゾンのハーモニーになります。(1オクターブ下の音が付加されます。)

6: ストラム

弦楽器をストローク奏法で弾いた時のようなハーモニーになります。

3 モードを選ぶ

スプリット、シングルフィンガー、フィンガードのうち、いずれかのモードにします。

4 低音側でコードを押さえ、高音側でメロディーを演奏します。

押さえたコードにもとづいたハーモニーが、高音側メロディーに付加されます。

※オートハーモニーをオンにすると、高音側は最高音だけを検出する状態になります。複数の鍵盤を押さえても、最高音だけが検出されます。

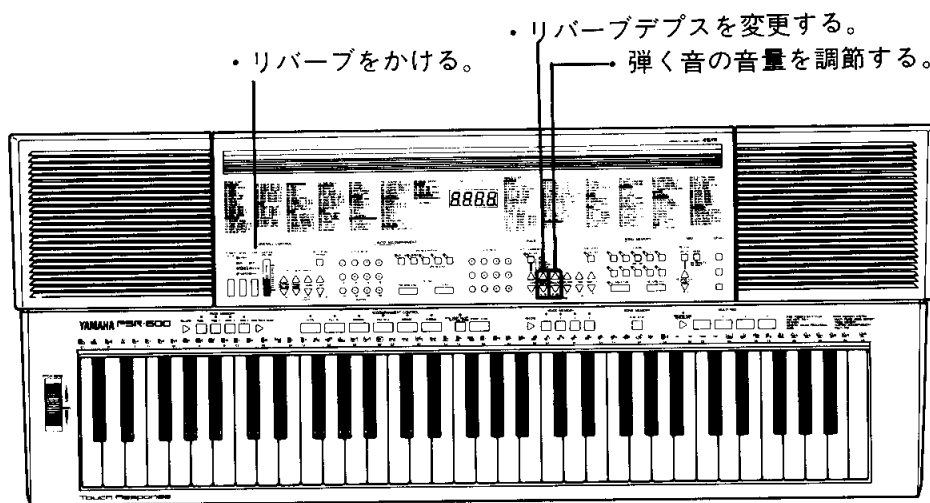
※シングルフィンガー、フィンガード、ソングメモリーのコードトラック再生時は、コードに合わせて弾いた音にハーモニーが付加されます。またスプリットの状態の時は、低音側押鍵に対してコード検出がフィンガード時と同じように行われ、そのコードに合わせて高音側を弾いた音にハーモニーが付加されます。コードが検出される前は、ハーモニー音は出ません。

※演奏(リズム、ベース、オーケストラ)音とスプリット時の低音側の音には、この効果はかかりません。また、デュアルボイスをオンにした時のデュアル音色にも、この効果はかかりません。

※オートハーモニーオン／オフボタンをオンにした後に押した鍵盤の音に対して、ハーモニーが付加されます。

※ノーマルモードの場合、ハーモニーは付きませんが、ハーモニーオフ時と同様に複数の鍵盤で演奏できます。

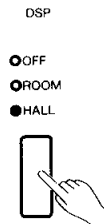
※コードが無い状態にする(52ページ参照)と、ノーマルモードの場合と同様に演奏できますので、通常演奏↔ハーモニー演奏を瞬時に切り替えることができます。



3. DSP(リバーブ)

DSPはデジタルサウンドプロセッシングの略で、デジタル回路を用いたリバーブ(音に残響を与える)効果のことです。

リバーブをかける



DSPボタンを押して、ルームまたはホールのリバーブ効果をかけます。

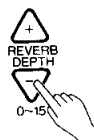
ルーム

響きやすい部屋で弾いた時のような響きが得られます。

ホール

コンサートホールで弾いた時のような響きが得られます。

リバーブデプスを変更するには



リバーブデプスボタンを押してリバーブの深さを変更します。

ボタンを押すと、現在値が表示されます。現在値の表示の間にボタンを押すと、値が変更されます。

※0(かからない)～15(最も深くかかる)の中で指定できます。



※リバーブデプスボタンの+ボタンと-ボタンを同時に押すと、標準の6に戻ります。

※リバーブはすべてのパート(自動伴奏やソングメモリーも含む)にかかります。ただしパートによって、異なった深さが設定されています。DSPをオフにすると、すべてのパートのリバーブがオフになります。またルームやホールにすると、すべてのパートのリバーブの種類がそのリバーブタイプになります。リバーブデプスの値を変更すると、演奏中の音のみリバーブの深さが変わります。

※スプリット時やデュアルボイス時には、音色ごとにリバーブデプスの値を指定できます。たとえばスプリット+デュアルの状態では各音色のリバーブデプスの値を指定するには、高音側のノーマル、デュアル、低音側のノーマル、デュアルそれぞれの音色を指定した時に、リバーブデプスの値も指定します。(22ページ参照)

4. ボリューム

自動伴奏やソングメモリーなど他の音量を変えないで、弾く音の音量だけを調節できます。

弾く音の音量を調節する



ボイス部のボリュームボタンで調節します。

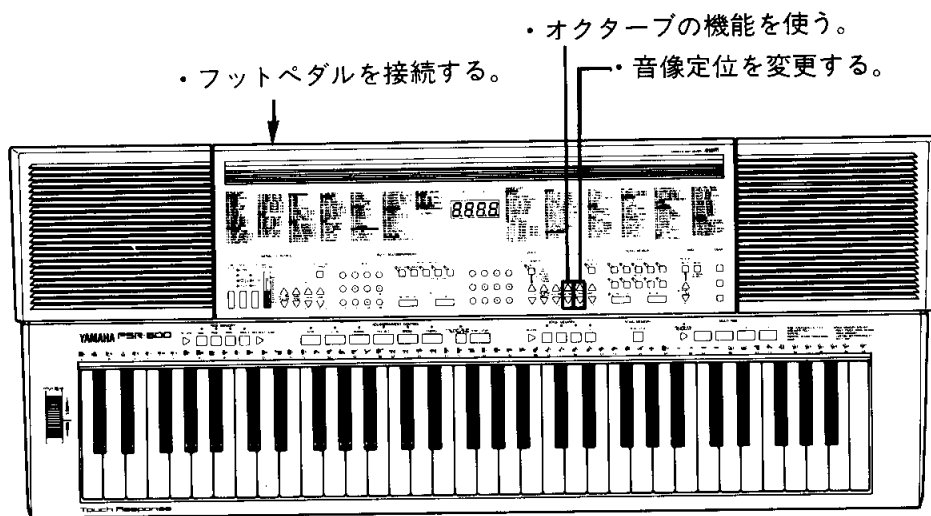
ボタンを押すと、現在値が表示されます。現在値の表示の間にボタンを押すと、値が変更されます。

※0(音が出ない)~24(最大)の中で指定できます。



※ボリュームボタンの+ボタンと-ボタンを同時に押すと、標準の21に戻ります。

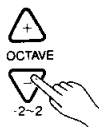
スプリット時やデュアルボイス時には、音色ごとに音量を指定できます。たとえばスプリット+デュアルの状態では各音色の音量を指定するには、高音側のノーマル、デュアル、低音側のノーマル、デュアルそれぞれの音色を指定した時に、音量も指定します。(22ページ参照)



5. オクターブ

オクターブの機能を使うことにより、弾く音の発音をオクターブ単位でずらすことができます。スプリットモード時に低音側や高音側のオクターブを調整したり、デュアル時にデュアル音やノーマル音のオクターブを調整したり、また、鍵盤の最低音より低い音や最高音より高い音が必要な時に役立ちます。

オクターブの機能を使う



オクターブボタンを押して、ずらす量を指定します。

ボタンを押すと、現在値が表示されます。現在値の表示の間にボタンを押すと、値が変更されます。

※-2(2オクターブ下がる)~+2(2オクターブ上がる)の中で、1オクターブ単位で指定できます。



※オクターブボタンの+ボタンと-ボタンを同時に押すと、標準の0(元の音程のまま)に戻ります。

※弾く音にのみオクターブの機能が働きます。

※スプリット時やデュアルボイス時には、音色ごとにオクターブの値を指定できます。たとえばスプリット+デュアルの状態では、各音色のオクターブの値を指定するには、高音側のノーマル、デュアル、低音側のノーマル、デュアルそれぞれの音色を指定した時に、オクターブの値も指定します。(22ページ参照)

※押鍵中はオクターブを変更できません。

※音色には最高音の限界があります。最高音を越えて弾いた場合は、サイン波が発音されます。

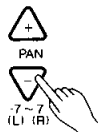
また、C₂より低い音を出そうとした時は、その音が1オクターブ上げられて発音されます。G₈より高い音を出そうとした時は、その音が1オクターブ下げられて発音されます。

(C₂、G₈とは、A₃=440Hzとした時の絶対音程を指します。)

6. パン

弾いた音が左右のスピーカーの、どのあたりから聞こえるようにするかを変更できます。

音像定位を変更する



パンボタンで指定します。

ボタンを押すと、現在値が表示されます。現在値の表示の間にボタンを押すと、値が変更されます。

※-7(左スピーカーの位置から聞こえる)~7(右スピーカーの位置から聞こえる)の中で指定できます。



※パンボタンの+ボタンと-ボタンを同時に押すと、標準の0に戻ります。

※弾いた音だけにパン機能が働きます。

※スプリット時やデュアルボイス時には、音色ごとにパンの値を指定できます。たとえばスプリット+デュアルの状態で各音色のパンの値を指定するには、高音側のノーマル、デュアル、低音側のノーマル、デュアルそれぞれの音色を指定した時に、パンの値も指定します。(22ページ参照)

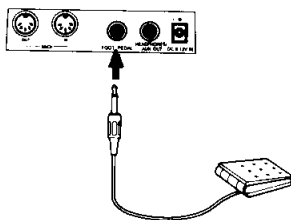
※設定前から押鍵していた音に対しては、押鍵時のパン設定のまま発音されます。

※残響音(リバーブ音)の音像定位は、変更できません。

7. サステイン

ピアノのダンパーペダルと同様に、鍵盤から指を離した後の余韻をのばす機能です。

フットペダルを接続する



リアパネルのフットペダル接続用端子に、付属の専用フットペダルを接続します。

※フットペダルを踏みながら、電源を入れるとフットペダルのオン/オフが逆になります。

オンオフが逆のタイプのフットペダルを使用する時に有効です。

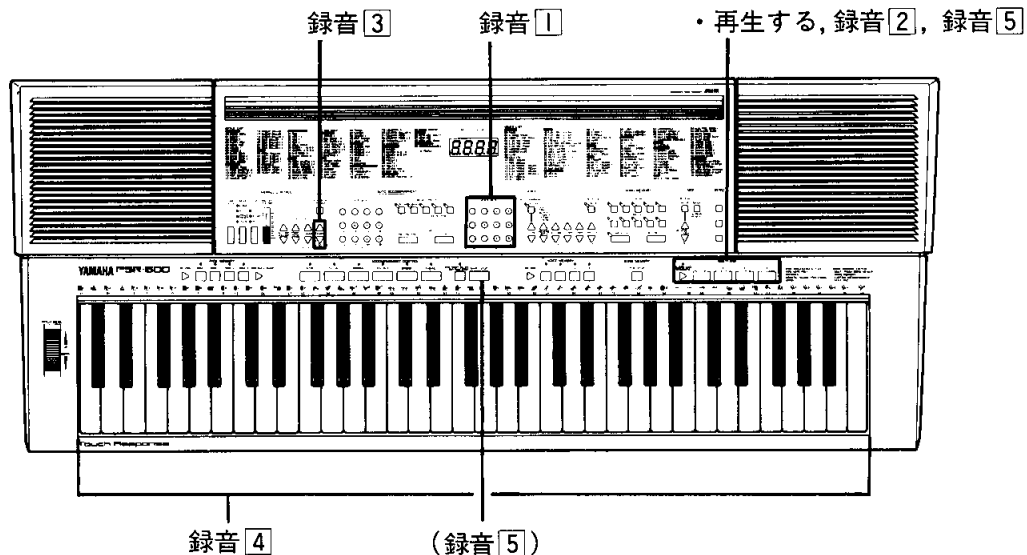
2 持続させる音を弾いた上で、タイミング良くフットペダルを踏む

※手弾き音の離鍵の音にのみサステイン効果がかかります。

※音色番号26のミュートギター、41のマリンバ、99のパーカッションなど、一部の音色に対しては、サステインはかかりません。

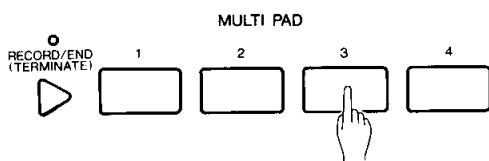
8. マルチパッド

あらかじめ、マルチパッドにフィルインやオブリガート等を録音しておけば、演奏中にマルチパッドを押してそれらの音を付加できます。



再生

再生する



希望するパッドを押して再生させます。

※最後まで再生されると、そこで再生が止まります。

※再生の途中で同じパッドを押すと、最初から再生し直されます。(故意に繰り返し押しても、面白い効果が得られます。)

※2ヶ以上のパッドを押して、いっしょに再生させることもできます。

※テンポを変えると、再生の速さも変わります。

※再生を途中で停止させる場合は、レコード/エンド(ターミネイト)ボタンを押します。

録音

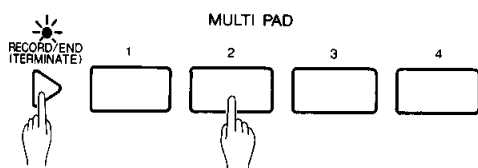
マルチパッドの録音内容を、オリジナルの録音内容に変更できます。

1 音色を選ぶ

録音する音の音色を選びます。もちろんパーカッション系の音色を選ぶこともできます。

※必要に応じてハーモニー、リバーブデプス、音量、オクターブ、パン、デュアルオン、デュアル音色をセットできます。

2 録音待機状態に



マルチパッド部のレコード/エンドボタンを押しながら、録音先のマルチパッドを押します。

※この操作をした時点で、録音待機状態(押鍵すると録音が始まる状態)になります。

※この操作をした時点で、メトロノーム音が1拍ごとに鳴り出すと共に、レコード/エンドボタン上のランプも点滅を始めます。

※録音をやめる場合は、再びレコード/エンドボタンを押します。(ここでやめた場合は、前の録音内容は消えません。)

3 テンポを設定する

メトロノーム音を聴きながら、録音しやすいテンポにします。

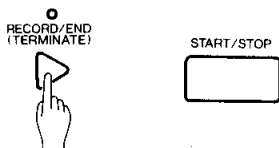
※再生時は、再生時のテンポで再生されます。

4 録音の開始

鍵盤を弾くか、またはスタート/ストップボタンを押すと録音が始まります。メトロノーム音を聴きながら、録音内容を弾きます。

※ピッチベンドホイールやサステイン機能を使うこともできます。

5 録音の終了



レコード/エンドボタンまたはスタート/ストップボタンを押して録音終了です。

次のデータを録音できます。

- ・ノートオン/オフ(ベロシティ付)
- ・オートハーモニーオン/オフとタイプ
- ・デュアルオン/オフ
- ・音色番号(またはボイスメモリーボタンの番号)
- ・リバーブデプス
- ・ボリューム
- ・オクターブ
- ・パン
- ・ピッチベンド
- ・サステイン

※録音時には、オートハーモニーをオンにしてもハーモニーは付きません。オートハーモニーのオン/オフとタイプのみ録音しておき、再生時にスプリット、シングルフィンガー、フィンガードモードのいずれかにすることにより、ハーモニーが付きます。

※録音容量が一杯になると、録音が強制的に終了します。1つのパッドに約70音符録音できます。

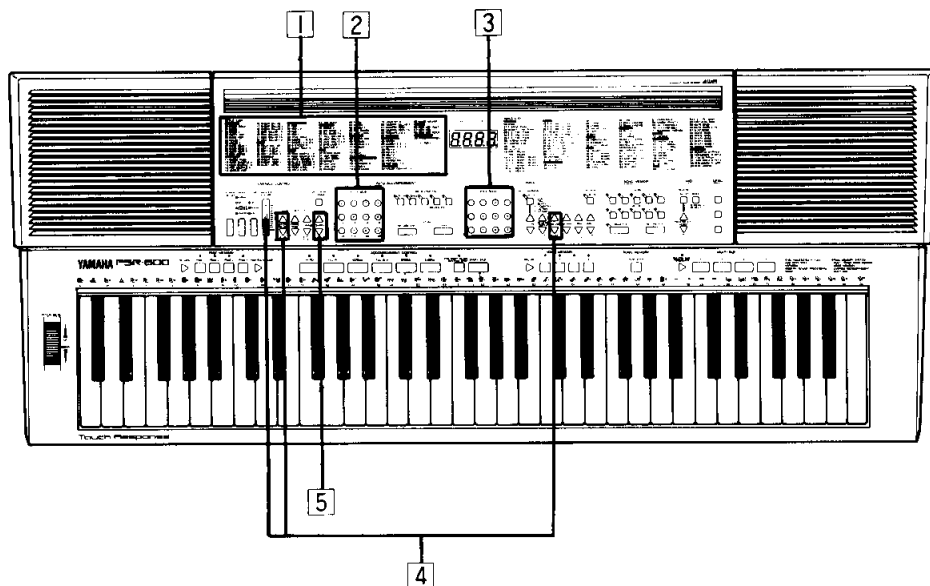
※録音した内容は、ページメモリー機能を使って、ページメモリーに記憶することをお勧めします。ページメモリーに記憶させなければ、ページを変えた時点で消えてしまいます。

5. リズムに合わせて弾こう

1. リズムに合わせて弾く

PSR-600には103種類のリズムスタイルがあります。いろいろなスタイルに切り替えて、リズムに合わせて弾いてみましょう。

※パネルのスタイルリストではスタイル番号は00～99までの100種類ですが、99番のプログラマブル(カスタムスタイル)は、ページごとに初期内容が異なるので、合計で103種類になります。
また、99番のページ1～4の内容は、自分の好みのパターンに変更できます。(パターンの作り方は、55ページ参照)



1 リズムスタイル番号の確認

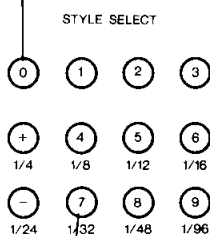
スタイルリストの中から、曲に合うスタイルを見つけます。

2 リズムスタイルの指定

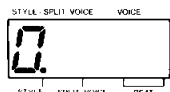
1～0ボタンで指定する場合

例) スタイル番号07のユーロビート1を指定する。

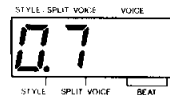
0ボタンを押して、



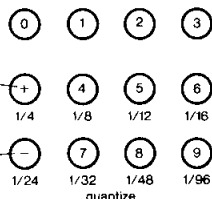
次に7を押す。



リズムスタイルの番号を示していることを意味する点



＋、－ボタンで指定する場合



大きい番号のスタイルになる

小さい番号のスタイルになる

指定の方法には2種類あります。

10の位のボタンを押したうえで、1の位のボタンを押します。

＋ボタンを押すと1大きい番号のスタイルになり、－ボタンを押すと1小さい番号のスタイルになります。
押し続けると連続して変わります。

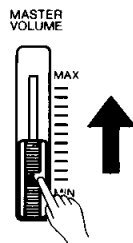
※リズムスタイルにより、パターンの長さが異なります。

3 音色の指定

ボイスセレクトボタンで、鍵盤を弾く音色を指定します。

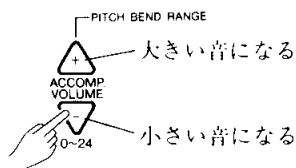
4 音量調節

全体の音量を調節する場合



マスターボリュームで調節します。

リズム音の音量のみ調節する場合



アコンパニメントボリュームボタンで調節します。

ボタンを押すと、現在値が表示されます。現在値の表示の間にボタンを押すと、値が変更されます。

※0(音が出ない)~24(最大)の中で指定できます。



ボイス部のボリュームボタンで調節します。

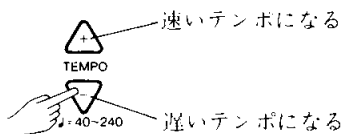
ボタンを押すと、現在値が表示されます。現在値の表示の間にボタンを押すと、値が変更されます。

※0(音が出ない)~24(最大)の中で指定できます。



※どちらの音量も、+ボタンと-ボタンを同時に押すと標準の21の大きさに戻ります。

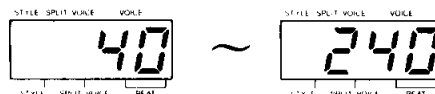
テンポの調節



リズムの速さをテンポボタンで調節します。演奏しやすい速さに調節してください。

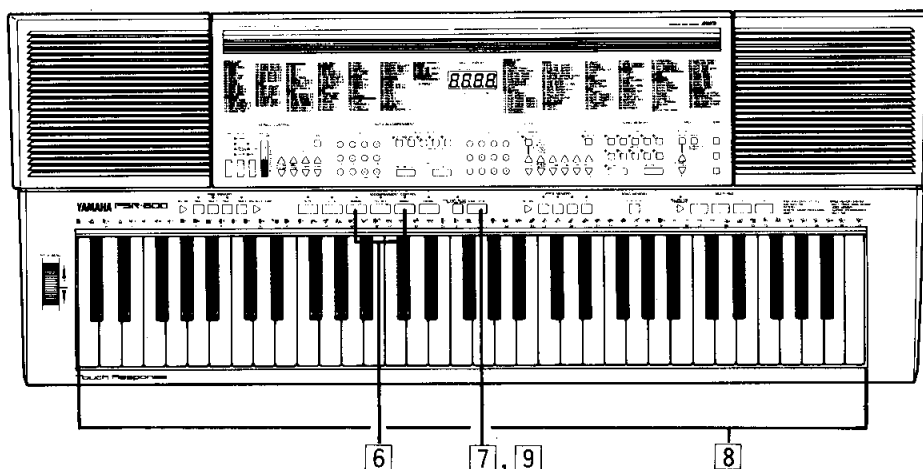
ボタンを押すと、現在値が表示されます。現在値の表示の間にボタンを押すと、値が変更されます。

※40(♩=40)~240(♩=240)の中で指定できます。



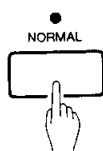
※リズム停止中にリズムスタイルを指定した時、テンポは指定したスタイルの標準テンポにセットされます。

※+ボタンと-ボタンを同時に押すと、そのスタイルの標準テンポに戻ります。

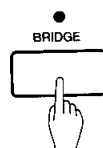


6 ノーマル/ブリッジの選択

基本パターンを先に持ってくる場合



盛り上がりパターンを先に持ってくる場合



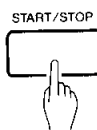
選んだリズムスタイルのノーマルパターンを鳴らすか、ブリッジパターンを鳴らすかを決めます。

ノーマルボタンを押します。

ブリッジボタンを押します。

※曲の中で2つのパターンをうまく使い、曲にメリハリをつけましょう。

7 スタート

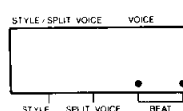


スタート/ストップボタンを押します。

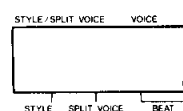
※リズムがすぐにスタートします。

※スタート後、マルチディスプレイ内の点が1拍ごとに点滅します。

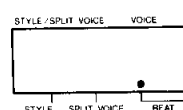
1 拍目



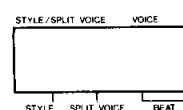
2 拍目



3 拍目



4 拍目



3拍子系のスタイルでは、3拍目の点滅後1拍目に戻ります。

8 演奏

弾いてみましょう。

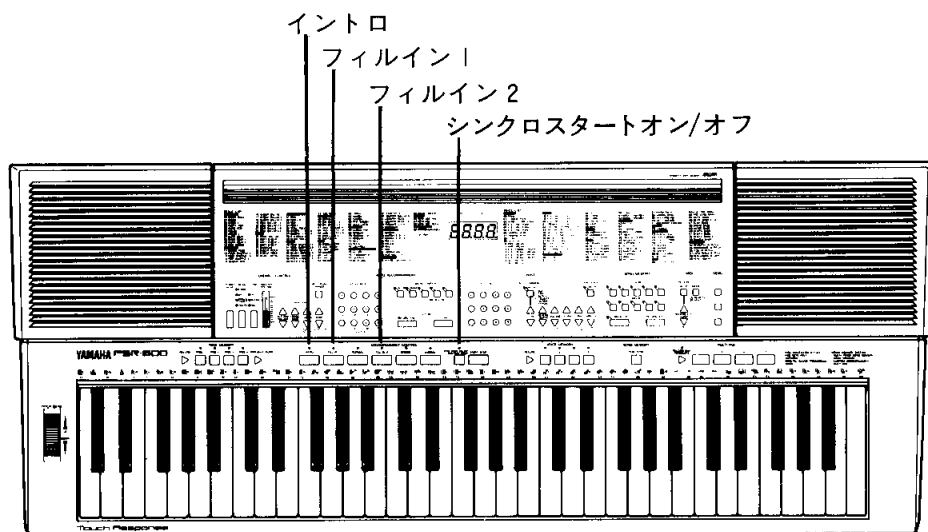
9 ストップ

スタート/ストップボタンを押します。
※リズムがすぐに停止します。



※いろいろなリズムスタイルに切り替えて弾いてみましょう。

※演奏中、別のリズムスタイルに切り替えることもできます。この場合、スタイル指定を終えた次の小節から、新しいスタイルに切り替わります。なお、スタイルを切り替えても、切り替え前のテンポが維持されます。



2. シンクロスタート

鍵盤を押したタイミングで、同時にリズムをスタートさせることができます。

1 シンクロスタート待機状態にする



シンクロスタートオン/オフボタンを押します。

※シンクロスタートオン/オフボタンのランプと、マルチディスプレイ内の点が1拍ごとに点滅します。

※シンクロスタート待機状態を解除する場合は、もう一度シンクロスタートオン/オフボタンを押します。

※シンクロスタート待機状態であっても、スタート/ストップボタンを押すと、すぐにスタートします。

2 演奏

弾いてみましょう。

※演奏の開始と共に、リズムもスタートします。

※スプリット、シングルフィンガー、フィンガードモードの場合は、低音側の鍵盤を押さないとスタートしません。

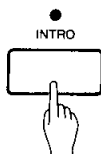
※イントロ、フィルイン1、ノーマル、フィルイン2、ブリッジ、エンディングのパターンからシンクロスタートさせることもできます。

※シンクロスタートオン/オフボタンでも、リズムを止めることができます。シンクロスタートオン/オフボタンを押して止めた場合は、シンクロスタート待機状態になります。

3. イントロ

イントロのパターンからリズムをスタートさせることができます。

1 イントロスタート待機状態に



イントロボタンを押して、ランプを点灯させます。

※ノーマルボタンまたはブリッジボタンのランプは点滅します。(次のパターンとして待機していることを意味します。)

2 スタート



スタート/ストップボタンを押すか、またはシンクロススタートオン/オフボタンを押してから押鍵します。

※リズムがスタートします。イントロパターンが終わると、ノーマルパターンまたはブリッジパターンに変わります。

※イントロパターン中にイントロ、ノーマル、ブリッジ、エンディングボタンを押すと、イントロパターンが終わった後にそのパターンに変わります。

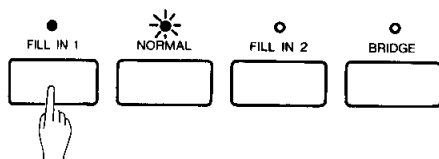
※イントロパターンは曲の初めだけでなく、リズムをスタートさせた後(曲の途中)に入れることも可能です。ボタンを押すと、次の小節からイントロパターンが入ります。

※イントロパターンの長さは、リズムスタイルによって異なります。

※イントロパターン中にリズムスタイルを切り替えても、新しいスタイルに変わるのは、現在のイントロパターン終了後です。

4. フィルイン

曲の途中でフィルインパターン(一般的にオカズと言われる変則的なパターン)を入れることができます。



フィルイン1または2ボタンを押します。

※フィルイン1と2では、パターンが異なります。

※ボタンを押した小節の終わりまで、フィルインパターンが入ります。ただし4拍目が過ぎてから押すと、次の小節にフィルインパターンが入ります。

※フィルイン1が終わるとノーマルパターンになり、フィルイン2が終わるとブリッジパターンになりますが、フィルインパターン再生中にノーマルまたはブリッジボタンを押して次のパターンを予約し直すこともできます。

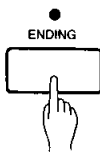
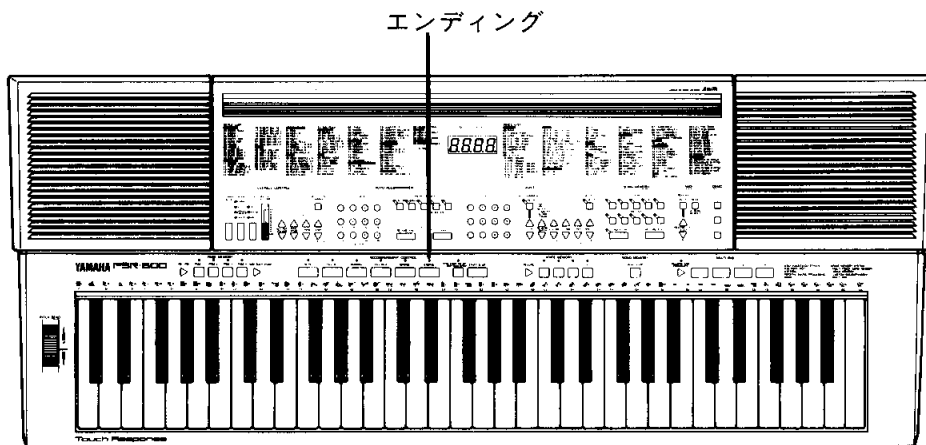
※フィルインボタンを押し続けるとフィルインパターンが繰り返され、ボタンを離すと次の小節からノーマルまたはブリッジパターンになります。

※フィルインパターンから、リズムをスタートさせることもできます。その場合は、フィルイン1ボタンまたはフィルイン2ボタンを押した上で、シンクロススタートまたはスタートの操作をし

てください。フィルインからのシンクロススタート待機中に、フィルイン1の次にブリッジパターンを、またはフィルイン2の次にノーマルパターンを、という逆の予約もできます。

5. エンディング

エンディングのパターンでリズムを停止させることができます。



エンディングボタンを押します。

※次の小節の頭からエンディングパターンになり、エンディングパターンが終わるとストップします。

※エンディングパターンに変わるまで、エンディングボタンのランプが点滅します。(次のパターンとして待機していることを意味します。)

※エンディングパターン中にイントロ、ノーマル、ブリッジ、エンディングボタンを押すと、エンディングパターンが終わった後にそのパターンに変わります。

※エンディングパターンの長さは、リズムスタイルによって異なります。

※エンディングパターン中にリズムスタイルを切り替えても、新しいスタイルが有効になるのは、現在のエンディングパターンが終了した後です。

※エンディングパターンから、リズムをスタートさせることもできます。その場合は、エンディングボタンを押してからスタートさせてください。